



## はさみがちぎれたザリガニは、死んでしまうの

### はさみは、節の所から切れやすくなっている

ザリガニやカニの仲間<sup>なかま</sup>は、はさみに強い力<sup>つよちから</sup>が加わったりすると、決まった節の所<sup>きまつたふしところ</sup>で切れるようになっています。これを、自切<sup>じせつ</sup>といいいます。その部分の皮<sup>ぶぶん</sup>が弱い<sup>かわよわ</sup>のです。強い相手<sup>つよあいて</sup>にはさみなどをつかまれ、自分の体<sup>じぶんからだ</sup>が動けなくなったり、何とかにげようと大あばれしたりすると、はさみがちぎれてしまいます。

### だっ皮のときに、新しいはさみが生える

なくなったはさみは、次にだっ皮<sup>つぎび</sup>するとき、新しいはさみ<sup>あたらし</sup>が、また生えてきます。最初に生えてくるはさみは、はさみには見えないような、小さくて貧弱<sup>ちいひんじやく</sup>なもので、役に立ちません。でも、だっ皮<sup>び</sup>をくり返すたびに、だんだん大きく、りっぱなはさみになっていきます。

ザリガニやカニの触角<sup>しゅつかく</sup>なども、はさみと同じように切れやすく、切れると、新しいもの<sup>あたらし</sup>が生えてきます。トカゲのしっぽや、ヒトデのうでなども、同じように、決まった所<sup>きまつたところ</sup>から切れやすく、切れたあとに、新しいものが生えてきます。(監修・中山 周平)



はさみを残してにげ出すザリガニ

